

## 第9回尖石縄文文化賞

受賞者：山崎純男

尖石縄文文化賞条例にもとづく、同賞の選考委員会は、柳平千代一茅野市長の諮問を受け、委員4名の出席の下に、8月25日尖石縄文考古館で行われた。

今回、選考・審査の対象となったのは、個人・団体あわせて14件であった。候補者の内訳は、40歳代から60歳代におよび、所属機関や研究歴は多彩で、「受賞の対象となる研究及び活動の業績」についても、宮坂英弉が尖石遺跡の発掘や研究を通して目指した、縄文時代の歴史の本質に迫るすぐれた研究と活動を示すものであった。このことは、本年第9回目を迎えた本賞の趣旨が、広く学界等一般に周知された結果として、誠に喜ばしいことである。

こうしたすぐれた候補者を得て、選考委員会では慎重な審議の結果、第9回尖石縄文文化賞の受賞者として、山崎純男氏（福岡県）を、全会一致で推薦することに決定した。

同氏は福岡市教育委員会において、板付遺跡をはじめとする最古の水田跡の発掘調査に従事するとともに、九州縄文時代の生業について精力的な研究を行っている。特に膨大な量の土器の中から、レプリカ法を用いて栽培植物や随伴植物及びコクゾウムシなどの圧痕を探索し、その存在を実証するとともに、縄文時代と弥生時代における、それらの種類と組み合わせ及び量の違いを明らかにした。こうした研究の方向性は今後の縄文時代生業論に大きな展望を拓くものである。

同氏の研究は、縄文人の行動や社会生活を明らかにしようとした宮坂英弉の研究を継承・発展させたものであり、茅野市が本賞を制定した意義にそった、まことにふさわしい受賞者である。

2008年8月27日

宮坂英弉記念尖石縄文文化賞選考委員会  
委員長 戸沢充則



第9回受賞者 山崎純男氏